

看護・介護とセラピストの連携について～アンケート調査を実施して～
稲次整形外科病院 回復期リハビリテーション病棟 ○鈴江春代 堀江和枝

【はじめに】在宅復帰に向けた ADL 向上を目指し患者援助を行っていく上で、関わる機会の多い看護・介護スタッフとセラピスト(PT・OT・ST)との連携は重要となる。稲次整形外科病院(以下当院)では看護・介護スタッフとセラピストの連携ができていないとの意見があり、情報伝達が十分に行えておらず、介助方法も統一できていなかった。これらの原因を探り、現状改善の糸口となるよう、看護・介護スタッフ、セラピストの連携に対する意識調査を行った。

【方法】当院回復期リハビリテーション病棟に1年以上勤務する看護・介護スタッフ、セラピストを対象とし、平成23年より、5月・11月に、6項目のアンケート調査を実施。

【結果・考察】回収率は、看護・介護スタッフは3回通して94～100%、セラピストは第1・2回は60%程度、第3回は92%となった。アンケート内容では、(1)他職種間は連携できているかは、看護・介護スタッフは第1～3回を通して30～40%台、セラピストは40～50%だった。(2)ウォーキングカンファレンスの他職種との実施の有無では、看護・介護スタッフは60～70%台、セラピストは80～90%台となった。(3)互いへの要望では、看護・介護スタッフからはセラピストの患者生活援助への介入を増やして欲しいとの要望が多く、セラピストからは介助方法の統一ができていない、受け持ち患者の事をもっと知ってほしい等の意見が挙げられた。ウォーキングカンファレンスの機会を増やしたいこと、情報伝達を確実に行っていきたいことは毎回双方から挙がっており、これらの意見が「他職種間の連携ができていない」と感じる要素となっている。3回のアンケート調査の結果、互いのコミュニケーション不足が大きな要因となっていることが分かった。今後もアンケート調査の継続、結果に対する改善策を実施し、他職種間の連携を深められるよう改善していきたい。